

令和 6 年度第 3 回モニター会議の総括案について

1 開催趣旨

「令和 6 年度芽室町議会活性化計画主要事業（活性化策）」に掲げた「外部評価による議会活動の精査と向上」の具体的な取組みとして、常任委員会が 1 年間かけて調査研究を進めた政策課題（抽出事業）について、議会モニターによる外部評価を実施しようとするもの。

2 事業実績

- (1) 日 時 令和 7 年 1 月 30 日（木）18 時 30 分～20 時
- (2) 場 所 役場 3 階委員会室
- (3) 手 法 参集／オンライン
- (4) 出席者 モニター 12 名（うちオンライン 2 名）／ 議員 15 名
- (5) テーマ 「芽室町議会の 1 年の活動を振り返る」
- (6) 評価対象事業（ア：総務経済常任委員会事業／イ：厚生文教常任委員会事業）
 - ア 「芽室町まちなか再生ビジョン」の検証及びあり方について
 - イ 「誰一人取り残さない防災対策の構築について」
- (7) 進行要領
 - ア 両常任委員長から事業について説明（各 5 分）
 - イ 5 グループ（A～E）に分かれてのグループワーク
 - A・B：総務経済常任委員会所管事業
 - C・D：厚生文教常任委員会所管事業
 - E：両常任委員会所管事業
 - ウ グループ発表（各 3 分）

3 事業総括

(1) 成 果：目的は概ね達成

議会における外部評価の目的は、議会運営や政策決定の透明性、効果性を高め、改善に向けたフィードバックの提供である。

今回のテーマにおいては、「①：町民のニーズにマッチしているか？」
「②：取組みについて過不足はないか？課題解決に寄与しているか？」
等について評価を求めた。

議会について、関心が高議会モニターから、客観的な視点・町民の視点でどのような改善が必要かについて評価を得ることによって、今

年度の事業評価及び次年度への取組みの意見を聴くことができた。

- (2) 課題：評価対象事業の設定、評価方法等については、今後も検討が必要。

グループワークのまとめ

● Bグループ

- ・進展具合はちょっとわかりにくかった。
- ・富良野マルシェをみた。「めむろ一ど」だったらと思う。
- ・拠点化、人の流れを呼び込み。
- ・発信していない。視察の報告が届いていない。
- ・ユナイトの周知ができてきた。2月で終了なのが残念。続かないのはもったいない。
- ・P-PFIはちょっと心配。いい方向へ行ってほしい。
- ・具体的対策、空き店舗など見えにくい。
- ・ビジョンの実効性は進んでいる。
- ・小店ができている。もう少しで質的に変わるのでは。
- ・P-PFI、リンクの仕方を考えていくべき。
- ・まちなか中心地、スーパーが中心。めむろ一どの意味
- ・駐車場利用、めむろ一どを利用する
- ・イベント発進で人の流れをつくる
- ・ライジング跡地もったいない、活用できれば
「これからのまちなか再生」は
- ・少年団、スケートとか高すぎる
- ・拠点（子どもたちの）集まれるところの調査
- ・新嵐山の能力はある、グリーンシーズンだけなら「まちなか」へ

● Cグループ

- ・上美生防災訓練を実施。障がい者もいたと思う。
- ・高齢者宅を訪問し避難誘導をしたがむずかしい
- ・訓練が大事、町内会の高齢化
- ・避難所がどこか知らない
- ・実際に災害が起きた時に訓練どおりにできるか
- ・そもそも意識が低い（災害に対する）
- ・高齢者が町内会をやめていく
- ・福祉避難所は法的に設置しなければいけない？
- ・福祉避難所の従業員は知っている？定期的にお知らせ等必要では。

<その他>

- * 少子化に関心あり
- * 将来的な負担はどうか？
- * インフラ等維持できなくなるのでは？
- * ベビー
- * ブームが起きれば良いが
- * 役場の地域担当は機能している？→総会に出るくらい
- * 近所が大事といっても若い人にはひびかない

<モニターを振り返って>

- * 会議の回数は多かった？ → 3回の会議はちょうどよかった
- * 楽しかったか？ → 正直楽しくはない
- * サウンドカードは楽しかった

● Dグループ

- ・ 先進地においては引継ぎはされていたが、実体験をした職員に説明してもらった。
- ・ 個別避難計画を作るにあたって個人情報の取扱いがネックとなっていた
- ・ どんぐり会の要望→視察→要望どおりの実現はなかなかむずかしい
- ・ 議会としてフォーカスする次のステップは「仕組み」なのか？「環境」なのか？
- ・ 実現にあたっては、地域住民の協力が必須
- ・ 要配慮者の名簿のアップデートなど非常にむずかしい
- ・ 他自治体の事例→コミュニティナース
- ・ 災害時の町内会単位で声を掛け合うが、会に入っていない方の状況が把握しにくい
- ・ 報告書ベースで伝わらない部分もあり発信が必要
- ・ 事前に意識を高めるきっかけが必要（災害発生）
- ・ 要配慮者や家族の意識も変わっていく必要がある
- ・ 意識を変えるためには定期的に避難訓練等が必要